2024年6月9日 礼拝メッセージ

聖書:エペソ人への手紙4章17～32節

説教:赦し合いなさい

はじめに

前回までのおさらいをします。キリストのからだである教会は、すでに備えられている関節、ジョイント、継ぎ手を相手に差し出すことでつなぎ合わされて建てられていきます。問題なのは、いったいなにを差し出すのかです。どんな人でも必ず差し出せるものでなかればなりません。それは何かと言えば、私たちは神に対して罪を犯してきたどら息子、どら娘だという告白です。この告白ならば、どんな人でも全員持っている。それをお互いに差し出すことによって、結び合わされていく。それが教会だという話をしました。

それはわかったとして、これだけでは抽象的で実感がない。そこで今日は応用編ということで、私たちがいつも悩んでいる隣の人との関係という問題を取り上げて、私たちはどのように歩んでいけばよいのかを考えます。

１　キリストの教え

１）古い人を脱ぎ捨てる

そこでまず、私たちがキリストから教えられている真理とは何であったのか、そこから確認してまいります。22～24節。「その教えとは、あなたがたの以前の生活について言えば、人を欺く情欲によって腐敗していく古い人を、あなたがたが脱ぎ捨てること、また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け、真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。」

「古い人」、「新しい人」とあります。古い人の生き方は、知性において暗くなり、無知と頑なな心のゆえに、神のいのちから遠く離れています。好色に身を任せて不潔な行いを貪る。それが古い人です。皆さんも救われる前、自分がどんな生き方をしていたのかを思い返すと、ここにあてはまることがたくさんあるでしょう。

２）新しくされ続ける

そんな古い人の服を脱ぎ捨てなさいと言う。でもどうでしょうか。これまで聖書から遠く離れた生き方を何十年も続けてきて、ある日突然、今日から新しい生き方に変えろと言われても、とてもできそうにありません。それでも努力して、自分の力で古い服を脱ぎ捨てて新しい服を着なさいと言っているのか。そんなことはない。このことについてちゃんと書いてある。23節です。「あなたがたが霊と心において新しくされ続け。」よく読んでください。「あなたがたは自分の力で、霊と心を新しくしなさい」とは書いていない。書いてあるのは、「新しくされ続けていきなさい」です。だれによってですか。もちろん神、あるいはイエス・キリストによってです。神が私たちを新しく造り変えてくださるというのです。

３）霊と心において

この自分を造り変えるという話しで思い出すのは、スマホのことです。いま、スマホのカメラでで、「自撮り」とか「セルフィー」と言って自分の顔を写します。最近はただ写すだけでなく、自分の顔を加工して、美人やハンサムに見えるようにするのが流行っているそうです。これはまさに新しく自分を造り変えたいという話しと同じです。

神が私たちのどこを新しくするのか。残念ながら顔ではなくて、「霊と心」です。「霊と心」は目に見えません。どうして目に見えないところを造り変えようとされるのか。

このことについてイエスが語っている場面があります。あるとき律法学者たちが、イエスと弟子たちが手を洗わずにパンを食べているのを見て、律法違反であると抗議をしてきたときのこと。イエスは彼らにこう語られました。マタイ15章18～20節です。「口から出るものは心から出て来ます。それが人を汚すのです。悪い考え、殺人、姦淫、淫らな行い、盗み、偽証、ののしりは、心から出て来るからです。これらのものが人を汚します。しかし、洗わない手で食べることは人を汚しません。」どんなに見た目をよくしようと顔を盛っても、心がそのままであれば、そこから悪いものがどんどん出て人を汚す。だからまず霊と心から変えられていかなければなりません。イエスはこう言われた。

ではいったいどのようにして霊と心は変えられるのか。そのことを次に見ていきます。

２　互いに体の一部分なので

１）真実を語る

25節。「ですから、あなたがたは偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。私たちは互いに、からだの一部分なのです。」

皆さんのなかにも膝や背中、腰の痛みで悩んでいる方もおられるでしょう。健康なときは気がつきませんが、病んでみて初めて、関節の大切さが分かります。キリストのからだである教会も同じです。各自が持っている関節、ジョイントが結び合わされていくとき、もし自分の差し出す関節に不具合があったらどうなるか。必ず痛み出します。湿布を貼ろうが、なにをしようがごまかすことはできません。できれば痛くなるのはいやですから、なるべく不具合がないほうがよろしい。では不具合とはなにか。

２）人の成長に役立つことばを語る

29節。「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい。」

悪いことばとあります。怒り、憤り、怒号、ののしりとあるので、悪意のこもったものの言い方と言ってもいいでしょう。それが不具合の内容です。相手に怒りをぶつけていたら、とても結び合わされるどころではない、これはわかりやすい。

でも不具合というのはそれだけではない。ここに、「人の成長に役立つことばを語りなさい」とあります。これを逆にすれば、「人の成長に役立たないことばは語らない」となる。では、成長に役立たないことばとは何か。無駄口をするな、冗談もだめ、そんなことはない。イエスも冗談は言うし、駄じゃれも飛ばしています。ですからそういうことではない。ではなにか。

３）キリストのからだを傷つけてしまう

ここで人間関係の問題になります。世の中にはいろいろな人います。気が合う人だというのなら問題はありません。問題なのは、あの人のすることなすことが、なにか引っかかって、批判的な目で見てしまう。そういう人がとどうしても一緒になってしまうことがある。もちろん相手の方には直接言いません。でも、心許す友人や家族には口を滑らす。「あの人はこうだからダメだ。あの人は変な人。」そんなふうに批判的なことばを口にすることがあります。そんな状態で、どうやって組み合わされるのでしょうか。できません。

教会はキリストのからだでした。そのからだはそれぞれが備えている関節を差し出し、そこでしっかりと組み合わされて建て上げられていきます。もしも相手を批判しながら関節を関節を差し出したらどうなりますか。自分もそうですが、相手も「痛い」と言って、反射的に関節を引っ込めてしまうでしょう。そうしたらもう組み合わせることはできません。従って成長もできない。口に出さないから大丈夫、ではない。どんなに隠そうとしても、いつか口から出てきてしまいます。そのとき二つの問題が生じます。

一つ目。私たちはキリストのからだを建て上げていくはずなのですが、実はそうやってキリストのからだを傷つけてしまうことになります。これが一つ目の問題。

二つ目。私たちは自分の成長のことは気になりますが、ほかの人の成長についてはあまり考えないかもしれない。けれどもキリストの教会は、自分もそうですがほかの人も一緒に成長していく。そういう場所です。悪意のあることばを心の中に抱えているならば、自分もそうですが、相手の方も恵みを逃してしまう。そういうことをしてしまうことになる。

どうしたらよいのでしょう。もし自分の口から人を悪意のある批判のことばが出て来たら、いやたとえ口で語らなくても心の中で思っていると気がついたなら、私たちは悔い改めるのです。私は人の成長を願わずに、恵みを与えようともしない罪人です。そのように告白をしていく。そこから、神が私たちを例と心において新しく造り変えていくことが始まっていきます。

３　神

１）キリストにおいて

でもほんとうにできるのでしょうか。32節。「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。」

ここに「赦し合いなさい」と訳されていることばにあります。ほかの箇所では「恵みを与えなさい」とも訳されている、そんなことばです。29節の「聞く人に恵みを与えなさい。」ここにはずっとそういう流れがあるということです。ですから32節後半はこうも訳すことができる。「神も、キリストにおいてあなたがたに恵みを与えてくださったのです。」どんな恵みを与えてくださったでしょうか。

二千年前、十字架の周りに集まった人々は、苦しんでいるイエスに向かって無慈悲に「十字架から下りてこい」とののしり、怒り叫んでいました。十字架の周りは怒号の渦で一杯です。私たちはそこにいて彼らと同じことをしていました。私はそんなことはしていません、と言っても無駄です。誰かに

向かって罵り、怒りをぶつけたことがあるなら、私たちはキリストにも同じことをしていたのです。そんな私たちであったのに、神は一方的に恵みを与えてくださいました。一方的にです。私たちがなにか良いことをしたから、ではない。むしろ悪いことをしていたときに、無条件で恵みを与えてくださった。それがイエス・キリストの模範です。この模範を見ていきます。

２）たとえ今できなくても

　そうは言ってもできない方もいるでしょう。過去にあの人からひどい目に遭わされた、それを思い出すたびに怒りが湧いてくる。どうしてもある人のことで憤ってしまう、怒りがどうしてもおさまらない。そういう方もおられるでしょう。そんなときどうしたらよいか。考えないようにするとか、見ないようにするということは、おそらくなんの解決にもならないでしょう。神は私たちの弱さもご存じです。ありのままの自分を神に申し上げればよいのです。人を赦すことのできないこんな私でも、神はすでに恵みを与えて赦してくださっています。自分の小ささや醜さが見えてくればくるほど、キリストの愛も見えてきます。そうしたら、やがて霊と心は変えられていくはずです。もちろん古い人はまだまだ残っています。でも神は、霊と心において私たちを新しく造り変えてくださる。それがこの地上を終える日までずっと続き、新しい人を少しずつ着るようになっていく。私たちはこうして天の御国に入る準備をさせていただいている。その恵みを覚えたいと願います。